

インフル 鶏卵抗体に効果確認

来年も実用化

フアーマフーズ
京都府立医大

バイオベンチャーのフ

アーマフーズと京都府立

医科大などの研究チーム

は、インフルエンザウイ

ルスに対する抗体を鶏卵

で作り、効果を確かめた。

細胞実験で昨年流行した

新型ウイルスなどの感染

を抑えることができた。

トローチやヨーグルトな

どの食品や医薬品への展

開を目指しており、20

11年にも実用化する考

島市で始まる日本ウイル

ス学会で発表する。

インフルエンザウイル

スを不活化したうえでニ

ワトリに注射した。ニワ

トリが産んだ卵から抗ウ

イルス作用を持つ抗体

「IgY」を回収・精製

した。ウイルスは新型、

季節性、弱毒化した高病
原性鳥インフルエンザの

3種類を使い、それぞれ
の抗体を評価した。

実験用細胞にウイルス
と抗体を加えて感染を抑
えられるか調べたところ、

抗体は30秒以内にウ

イルスを不活化できた。

抗ウイルス効果が知られ

るカテキンより素早く感

染を防げたという。唾液

(だえき)と混ぜても抗
体の能力は落ちなかつ

た。

フアーマフーズによる

と新型と季節性など複数

タイプを混ぜてニワトリ

に打つことも可能だとい